

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32643

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18569

研究課題名（和文）トランスディシプリナルな視点に基づく〈ケイパビリティ正義論〉の構築

研究課題名（英文）Construction of <A Theory of Capability Justice> based on Trans-disciplinary Perspective

研究代表者

後藤 玲子 (Gotoh, Reiko)

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：70272771

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：研究活動の総括として、Dignity, Freedom and Justice, Springer(2024年7月刊行予定)を編集した。本書では尊厳概念がリベラリズムに投げかける問いに回答しながら、正義理論の再編を図った。現存する位階的な秩序の中では、個人の内在的な価値もまた相互に比較されることを免れ得ない。本研究は、尊厳の尊重を帰結から独立した義務として定立したうえで、「尊厳へのケイパビリティ」の保障を個人の権利として確立する論理を模索した。具体的には、ロールズの偶然の哲学とセンのケイパビリティ・アプローチをもとに、公共的相互性の論理と倫理を構成すること、それを通じて正義理論の再編を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1971年ロールズ『正義理論』の刊行から50年経った。この間の日本の学際的なロールズ研究の蓄積をもとに、その理論的・実践的な展開を図り、世界に発信することの意義は大きい。本研究はトランスディシプリナル（福祉・医療政策学系、市民工学系、脳情報科学系、経済学系など）な視点を結び合わせることで、ケイパビリティ（潜在能力）アプローチに基づく正義理論を構成する途を探った。ケイパビリティアプローチは、個人の自由と尊厳を尊重しながら、個人の基本的潜在能力を保障する正義理論の探究に向かう。本研究は個人尊重主義的なこのアプローチが、グループ概念を媒介として公共的相互性の論理と倫理の要となる点を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：As a synthesis of this research, we edited Dignity, Freedom and Justice, Springer (to be published in July 2024). This book restructures A Theory of Justice while responding to the questions that the dignity concept poses for liberalism. Within the existing hierarchical orders, the intrinsic value of the individual is also inescapably subject to comparisons of values. Can we really recognize and respect the “dignity” of every individual, independent of a unified hierarchical logic? After establishing respect for dignity as an obligation independent of consequence, this study sought a logic that establishes the security of “capability to dignity” as an individual right. Specifically, we attempted to construct a logic and ethics of public reciprocity based on Rawls' philosophy of contingencies and Sen's capability approach and to restructure a theory of justice.

研究分野：経済哲学

キーワード：ケイパビリティ（潜在能力） 正義理論 ジョン・ロールズ アマルティア・セン トランス・ディシプリン 尊厳 自由 正義

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

実績報告書 挑戦的研究(萌芽)「トランスディシプリナルな視点に基づく<ケイパビリティ正義論>の構築」(18K18569:2018年度-2023年度)後藤玲子

1. 研究開始当初の背景

ケイパビリティアプローチの定義は、いたってシンプルである。それは、人が財やサービスを使って、さまざまな機能(移動する、おしゃべりをする、寛ぐ、暴力に曝されない、曝さないなど)を実現する際の、実現可能性に注目する。すなわち、人はどんな財やサービスを利用することができて、それをどんな機能(doingsやbeings)に変換することができるのか、本人が選ぼうと思えば選ぶことができ、選ぶ理由のある機能ベクトルの機会集合、すなわち「ケイパビリティ(潜在能力)」はいかなる形と大きさを備えているかに着目する。

このシンプルな枠組みが、実のところ、学術的には扱いづらいとされる多くの重要な問題を探究する道を拓いてきた。福祉・医療・教育・労働などさまざまな分野において、難病・重度身体障害・精神障害・虐待被害・心的外傷・社会的孤立等、深刻な制約条件をもつ個人の自由の在り処を問い、それを保障する社会の探究へと向かった。国連の人間開発指標や障害者権利条約の制定などにその成果を見ることができるという(Nussbaum, 2000, 2006等)。

このケイパビリティアプローチは、しかしながら、「アプローチ」ではあっても「理論」ではないとされてきた。ケイパビリティアプローチの理論化を阻む主たる理由は、次のような方法的難問にあった。(1)潜在能力の比較評価が結局のところ、本人の主観的評価に依存するなら、効用概念と同様に個人間比較不可能性問題を逃れえない。(2)観察されるのは選択(達成)点であって、潜在能力自体は観察されないの、推定の頑健性はおろか、実在性すら疑われる。(3)何が個人の潜在能力を構成する重要な機能リストかは文脈依存的であり、一般・普遍的に定めることはできないとしたら、国際比較は不可能となる。

新古典派経済学が注意深く回避してきたこれらの難問を、ケイパビリティアプローチはいわばまともに引き受けてしまった。そうだとしたら、ケイパビリティ正義理論の構築は、方法的難問への応答なくしてありえない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、この方法的難問に、トランスディシプリナル(異分野越境的)な視点の交錯を通じて応答しながら、ケイパビリティ正義理論の構築可能性を示すことにある。具体的には、根源的な差異と非対称性をもつ個人間の合意と協同に関する2つのモデル、<グループ基底の合意形成>モデルと<公共的互惠性システム>を定式化し、実装し、検証する。

より具体的には、第一に、個々人の主体的かつ客観的な、ただし非完備的な(比較不可能な範囲が規範的に残される)個人間比較の方法を探ること。これをより現実的なく公共的互惠性システム>に結晶化させることにある。

第二に、財サービス集合と利用能力がほぼ同一で、評価関数の異なる個々人の達成点(機能ベクトル)から、1人の個人の潜在能力フロンティアを推定する手法、換言すれば、集団データを基に個人の潜在能力をより構造的かつ動的に推定する<グループ基底の合意形成>モデルを探究することにある。

付記すれば、本研究は、文脈依存的な指標を俯瞰するトランス・ポジショナルな構図に基づく総合的機能リストの作成を試みる。

3. 研究の方法

本研究は3つの研究プロセス(【理論・定式】、【調査・実装】、【検証・発見】)を5つのグループ(規範経済学系、福祉・医療政策学系、市民工学系、脳情報科学系、比較実証経済学系)で分担する。各グループは基本的にはそれぞれの分担する課題を自主的に研究する。

【理論・定式】の課題は、ケイパビリティ指標に基づくロールズ正義理論の再構築である。具体的には、(1)ロールズの原初状態モデルを拡張するグループ基底の合意形成モデルを構成し、要請される規範的条件に関して、その現実性を調査と分析を通じて検証する。(2)同様に、公共的互惠性システムを理論的に構成し、要請される規範的条件の現実性を調査と分析を通じて検証する。

【調査・実装】の課題は、技法の異なる2つのアプローチで住民のケイパビリティの制約状況という同一対象を調査することである。福祉・医療政策学は、表出された言葉をひとまず解体しながら、個人の生活史に分け入り、本人の期待や願望、憤りやあきらめを言語化する。市民工学は人々が実際に移動する頻度や手段、福祉交通政策をめぐる討議を通じた公共的判断の創出などをとらえ、シンプルかつ誤解の少ないコードに落とし込んでいく。ここでは両者の研究活動を重ね合わせながら、自治体住民たちの具体的様相と政策事業の効果・意味を複眼的にとらえる。

【検証・発見】も、技法の異なる2つのアプローチで、共通の対象について異なる検証方法を設計することである。脳情報科学は、実験等疑似的環境を創出しながら、人間の意志と行動との関係、欲求と規範との関係などに切り込み、個人のケイパビリティの客観的評価と主観的評価の

ずれを捉え、報酬反応のただ中で創発する公共的互惠性の倫理の解明を行う。**比較実証経済学**は、ケイパビリティ概念を客観的データとして表現し、理論の検証に役立てる方法の確からしさに関心を置く。利用者と潜在的利用者との潜在能力上の差異をもとに事業変革の影響を識別する方法を設計し、実証する。以上3つのプロセスは一方向的ではなく、たえずフィードバックされながら相互参照的に進められる。

4. 研究成果

1) <グループ基底の合意形成>モデルと個人のケイパビリティの定式化

ケイパビリティアプローチは、究極的な目的を個人への等しい関心と尊重におく。その個人はさまざまな位相のグループに身をおく。個人の内なる **integrity** (福祉と主体性) は、グループ間の **integrity** (平和) なしにはあり得ない。本研究は、ケイパビリティアプローチを、個人とグループを包括する理論 (**transpositional justice**) へ展開する。ただし、「グループ」には、多様な位相がある。制度的概念としてのグループ、統計的概念としてのグループ、政治的グループ、倫理的概念としてのグループなど。本研究でいう「グループ」はこれらのいずれをも含み得る。ポイントは、個々人がいま、ここで実現している機能ベクトルを、互いに、「価値をおく理由のある生 (**alternative lives that have reason to value**)」と見なし合えるかどうかにおかれる。

グループは、個人の名前から独立に、本人の位置するポジション変数に依存して、共通の評価をもたらす「評価汎関数」を構成する。「評価汎関数」は、ポジション相対的かつ名前中立的な評価をもたらす。例えば、「個人 i, j が、同一のポジション b に立つことにより、 $f(x, i, b) = f(x, j, b)$ となる」(Sen, 1985b, 183)。本研究は、ケネス・アロー、そしてセンの社会的選択理論を手がかりとして、<グループ基底の合意形成>モデルの定式化を試みた。

理性 (**reason**) は合理性 (**rationality**) と違って個人間の理解を含み得る。例えば、同様の資源と利用能力をもつ個々人が、各人の異なる達成機能を、互いに「評価する理由のある生」と見なし合えるとしたら、彼女らを同一グループとしたうえで、個人のケイパビリティを構成する途が拓ける。本研究は、第二に、グループとタイプという2つの概念を用いて、達成される機能を基に、個人のケイパビリティの捕捉を試みた。要点は、資源と利用能力が同様で外出比率の異なるグループメンバーの達成機能を集積することにより、個人のケイパビリティを近似すること、より詳細には、グループの相違に起因する達成機能の格差をケイパビリティの「大きさ」の違いと捉え、タイプに起因する達成機能の格差を「不自由さ」の違いと捉える点にある。

2) *Dignity, Freedom and Justice* の刊行

研究活動の総括として、*Dignity, Freedom and Justice*, Springer (ed.) Gotoh, R. (2024年7月刊行予定)を編集した。本書では尊厳概念がリベラリズムに投げかける問いに回答しながら、正義理論の再編を図った。現存する位階的な秩序の中では、個人の内在的な価値もまた相互に比較されることを免れ得ない。本研究は、尊厳の尊重を帰結から独立した義務として定立したうえで、「尊厳へのケイパビリティ」の保障を個人の権利として確立する論理を模索した。具体的には、ロールズの偶然の哲学とセンのケイパビリティアプローチをもとに、公共的相互性の論理と倫理を構成すること、それを通じて正義理論の再編を試みた。

「相互性」は、直接・間接であれ、双方向的だが、等価性を要しない。「公共的相互性」の論理は、ルールを介した立場の **alternation** を通して、比較不可能な価値の絶え間なき発見と尊重を促す。自分は自分の実行可能なことをする、あなたはあなたの実行可能なことをする。それぞれがルールを守ることを互いに条件とし合いながら、自分は(も)ルールを守る。<異>なるものを包含しながら<同>にすることなく、序列と全体性を回避するヒントがここにある。

1971年ロールズ『正義理論』の刊行から50年経った。日本には学際的なロールズ研究への関心と研究蓄積がある。それをもとに、その理論的・実践的な展開を図り、世界に発信することの意義は大きい。本研究はトランスディシプリナル(福祉・医療政策学系、市民工学系、脳情報科学系、経済学系など)な視点を結び合わせることで、ケイパビリティアプローチに基づく正義理論を構成する途を探った。

トランスディシプリナルな協同研究の利点は、それぞれの専門分野がそれ以上、進むことのできない行き詰まり地点を開示し合うこと、それぞれの専門分野の行き詰まりを、他分野からの借り物ですり抜ける道が、はっきりと断たれる点にある。ケイパビリティアプローチは、福祉・医療・教育・労働などさまざまな分野に広がり、難病・重度身心障害・虐待被害・心的外傷・社会的孤立等、深刻な制約条件をもつ個人の自由の在り処を問い、それを保障する社会の探究へと向かう。それは、また、個人の自由と尊厳を尊重しながら、個人の基本的潜在能力を保障する正義理論の探究に向かう。本研究の意義は個人尊重主義的なこのアプローチが、グループ概念を媒介として公共的相互性の論理と倫理の要となる点を学術的に確かな方法で明らかにした点にある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 74
2. 論文標題 脱一元化論理にもとづく正義理論の展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 人文学への憧れと社会科学の営為としての経済哲学 福祉国家（Welfare state）を戦争国家（warfare state）にしないために、いま、われわれがなすこと	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人文学・社会科学の社会的インパクト』	6. 最初と最後の頁 197-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 リベラリズムと尊厳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『尊厳と生存』	6. 最初と最後の頁 169-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh, R. and R. Kambayashi	4. 巻 18-1
2. 論文標題 What the Welfare State Left Behind--Securing the Capability to Move for the Vulnerable--	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 124-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神林龍・後藤玲子・小林秀行・王薈琳	4. 巻 73-3
2. 論文標題 外出・在宅活動へのケイパビリティ・アプローチの応用の試み(2) 『A市外出に関する調査』より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『経済研究』	6. 最初と最後の頁 225-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 その生命/生存の条件は人の尊厳を満たすものですか?」(『尊厳と生存』後書き)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 加藤泰史・後藤玲子編『尊厳と生存』、法政大学出版局 所収	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 リベラリズムと尊厳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 加藤泰史・後藤玲子編『尊厳と生存』、法政大学出版局 所収	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神林龍・王薈琳・後藤玲子・小林秀行	4. 巻 -
2. 論文標題 外出・在宅活動へのケイパビリティ・アプローチの応用の試み(2) ~ 『A市外出に関する調査』より ~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋大学経済研究所編『経済研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子・岡田章	4. 巻 72(2)
2. 論文標題 ゲーム理論と社会的選択理論の接点 規範経済学の方法論的省察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一橋大学経済研究所編『経済研究』	6. 最初と最後の頁 169-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 センの平等論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新村聡・田上孝一編『平等の哲学入門』(図書所収論文)、社会評論社	6. 最初と最後の頁 182-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 『特集：感染症と社会福祉 コロナ禍と人間』序	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博・岡伸一・金子光一編『世界の社会福祉年鑑』(図書所収論文)2020(図書所収論文)、旬報社	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 仕事って？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名嶋義直編『10代からの批判的思考 社会を変える9つのヒント』(図書所収論文)明石書店	6. 最初と最後の頁 127-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子・神林 龍・小林秀行	4. 巻 71-3
2. 論文標題 外出・在宅活動へのケイパビリティ・アプローチの応用の試み - - 『A市高齢者・しょうがいしゃの外出に関する調査』より - -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 209-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 下巻
2. 論文標題 人間の尊厳と人文社会科学の挑戦 原爆被害者「生活史調査」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史・小島毅編『尊厳と社会』下巻、法政大学出版局 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 6
2. 論文標題 序	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 後藤玲子・新川敏光編『新・世界の社会福祉』第6巻、旬報社 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 70-3
2. 論文標題 われわれは福祉国家の「現実的ユートピア」を描けるだろうか 原爆被害者運動を手がかりとした日米比較分析の視座	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 227-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 70-3
2. 論文標題 小特集：何（誰）のための社会進歩か？ 福祉国家の再構築 序文	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 225-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 上巻
2. 論文標題 ワーク・ライフ・バランスと公共的相互性 二元論的視座をとることの意味	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大曾根寛・森田慎二郎・金川めぐみ・小西啓文編『福祉社会へのアプローチ 久塚純一先生古希祝賀[上巻]』成文堂（図書所収論文）、	6. 最初と最後の頁 553-570
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140
2. 論文標題 <公共的相互性>の論理と私たち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 82～99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140
2. 論文標題 思想の言葉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 なし
2. 論文標題 環境の経済哲学序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇佐美 誠 『気候正義：地球温暖化に立ち向かう規範理論』 勁草書房（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 163～184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 394
2. 論文標題 アローとセン 社会的選択理論の成立とその批判的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田政治経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 30～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh Reiko	4. 巻 16-2
2. 論文標題 Can we draw a “realistic utopia” toward publicly reciprocal welfare state? - A comparison of welfare programs between Japan and USA	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Work and Society International Online Journal	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Gotoh Reiko, Yoshihara Naoki	4. 巻 76-4
2. 論文標題 Securing basic well-being for all	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Social Economy	6. 最初と最後の頁 422～452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00346764.2018.1529331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 脱一元化論理にもとづく正義理論の展望--悪・不正義の胚胎と生存、そして人格--
3. 学会等名 日本哲学会第81回大会「大会シンポジウム「道徳的進歩（moral progress）とは何か、それはいかにして可能なのか」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 ケイパビリティ・アプローチにもとづく現代正義論と福祉国家論の再構築 規範経済学のパースペクティブ
3. 学会等名 第11回先端総合研究機構（ACRO）セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Reiko Gotoh and Ryo Kambayashi
2. 発表標題 What the Welfare State Left Behind--Securing the Capability to Move for the Vulnerable--
3. 学会等名 AEPR Inequality, Social Justice and Welfare in Asia Conference, 8 April 2022, via Zoom (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤 玲子
2. 発表標題 What the Welfare State Left Behind: Securing the Capability to Move for the Vulnerable
3. 学会等名 共同利用・共同研究拠点「気候正義問題下の経済システム論」第6回研究会/規範経済学研究センター共催（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 開催にあたって
3. 学会等名 風そよぎ、光あふれる<人>と<まち>---国立ケイバリティ・シンポジウム---【外出に関するアンケート調査中間報告会】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Measuring Capability Difficulties in Going Out and Staying at Home
3. 学会等名 HDCA Global Dialogue 2021 Pandemic issues: European and Asian economies(online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 『外出自粛』の経済哲学的考察
3. 学会等名 第39回一橋/相山哲学フォーラム、オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 福祉有償運送とケイバリティ調査
3. 学会等名 国立市市長懇談会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 ケーパビリティ調査～外出・在宅の自由を実現するために求められるかたち～
3. 学会等名 くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2020、オンライン（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Social Progress? In search of ethics and economics for advanced technological age
3. 学会等名 Conference on Individual Beings, Societies and States, SGH Warsaw School of Economics, Warsaw, Poland（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 大河ロマンとしての経済学 塩野谷祐一の大いなるチャレンジ
3. 学会等名 シンポジウム「経済哲学とは何であるのか?」、東京大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子・神林龍
2. 発表標題 外に出る／家でくつろぐ‘2018ケーパビリティ調査’が写した国立
3. 学会等名 この先の福祉交通について考えるシンポジウム、国立市（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Publicness and Democracy
3. 学会等名 2019 Human Development and Capability Association Conference, London (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 責任を負うこと、責任を問うこと 国家補償の論理と意味
3. 学会等名 第3回責任の研究会、東京大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Formulation of Public Reciprocity as a 'Realistic Utopia'
3. 学会等名 Asian Conference on the Philosophy of the Social Sciences, Nankai University, Tianjin, China (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 社会科学の殿堂 一橋大学改革論
3. 学会等名 2018年度第6回一橋大学政策フォーラム「人文学・社会科学におけるインパクトとは何か？」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a 'realistic utopia' toward publicly reciprocal welfare state?
3. 学会等名 "International Conference of "Social Progress for What (Whom)--Reconstruction of the Welfare State" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 What 's Missing in Economics: Philosophical Perspectives on the Future of the Economy
3. 学会等名 Hitotsubashi University International Seminars, Philosophy Conference for Shigoto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 State compensation for atomic bomb sufferers and call for the total abolishment of nuclear weapons
3. 学会等名 the 3rd World Social Science Forum (WSSF) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 独立(自立)と自己立法(自律) 公共的相互性のもとで
3. 学会等名 かもすワークショップ特別連続講座第1回「自立支援を問い直す」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gotoh, R. and Hideyuki Kobayashi
2. 発表標題 Independence in daily living of individuals- Formulation with positional objectivity and empirical analysis
3. 学会等名 2018 Cambridge Capability Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 The non-identity problem and the social choice procedure -Revisit to the intergenerational equity-
3. 学会等名 The 14th Social Choice and Welfare Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a 'realistic utopia' toward publicly reciprocal welfare state? -A comparison of welfare programs between Japan and USA-
3. 学会等名 International Conference on Ambivalences of the Rising Welfare Service State - Hopes and Hazards of Fundamentally Realigning the Architecture of Welfare Modernity (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 加藤泰史・後藤玲子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版会	5. 総ページ数 484
3. 書名 『尊厳と生存』	

1. 著者名 後藤玲子・玉井良尚・宮脇昇編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 201
3. 書名 談合と民主主義 公共空間におけるディール	

1. 著者名 加藤泰史・後藤玲子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局、近刊。	5. 総ページ数 -
3. 書名 尊厳と生存	

1. 著者名 宇佐見耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博、岡伸一、金子光一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 416
3. 書名 世界の社会福祉年鑑2021 (2022年度版)	

1. 著者名 Gotoh, R.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 258
3. 書名 The Ethics and Economics of the Capability Approach	

1. 著者名 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 284
3. 書名 『世界の社会福祉年鑑』2019	

1. 著者名 アマルティア・セン、バーナード・ウィリアムズ著、後藤 玲子監訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 466
3. 書名 功利主義をのりこえてー経済学と哲学の倫理ー	

1. 著者名 (宇佐見耕一・岡伸一・金子光一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編) 米田裕香、東田全央、徳永景子、宮下明子、福地健太郎、高橋洋平、中井裕真、石川美絵子、大場亜衣、榎本裕子、下澤嶽、盛上真美、白村直也、磯邊厚子、アルタン・ポリグ、新木秀和、小松豊明、中島早苗、富川功喬	4. 発行年 2018年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 380
3. 書名 世界の社会福祉年鑑 2018「特集 国際ソーシャルワークと社会福祉」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Joint Conference of the Asian Network for the Philosophy of the Social Sciences, the European Network for the Philosophy of the Social Sciences, the Philosophy of Social Science Roundtable (Online)	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------